

# 元気な高齢者の移住で雇用を創出

## 多世代が共生する「日本版CCRC」

地方創生の鍵として注目を集める日本版CCRC構想。その本質を理解するために重要なのは、「介護で儲けるのではなく、介護にさせないことで儲ける」という逆転の発想だ。本セミナーでは、CCRC研究の第一人者、三菱総合研究所の松田智生氏が登壇し、その意義と可能性について語った。



三菱総合研究所 プラチナ社会研究センター  
主席研究員 チーフプロデューサー

松田 智生 氏

「シニアがある」と氏は言う。日本ほど元気な高齢者に溢れた国はなく、日本版CCRC構想とは、アクティブ・シニアに着目し

施設を中心としたものであるのに対し、日本版はまち全体を視野に入れていて、ということ。高齢者に元気なうちに住替え、予防医療や健康支援を産業化して税収を上げる。一方で、介護予防による医療費・介護費の抑制を図る、というものだ。

口減少を止めるのだ。そして介護で儲けるのではなく、介護にさせないことで儲ける、という逆転の発想だ。介護保険に依存した収益モデルは、国の限られた税収を考えれば厳しい。そこで予防や健康支援を中心としたモデルへの転換が、事業者の経営を安定させる。日本版CCRCとは、多世代が共生する「まちまるごとCCRC」であり、国が目指す地域包括ケアシステムそのものであり、市民・自治体・産業の三方二得のモデルである。

### ユーザー視点で魅力的な住み替えのモデルを

地方再生法の改正で「生涯活躍のまち形成事業」が導入

され、財政面でも地方創生交付金が設けられるなど、国は日本版CCRCを進める自治体を積極的に後押ししている。しかしながら、「それだけでは十分ではない」と松田氏。現状では介護度が改善された場合、介護保険ベースでの事業者の収益は下がってしまう。逆転の発想でもし介護度が改善された場合には、事

### 予防医療の産業化により 税収を上げ、医療費を抑制

日本の高齢化率は26%と世界でも群を抜いて高く、1950年には60歳だった平均寿命は、今や80歳を超えている。この急速な高齢化に伴い、一気に膨らんだのが医療費と介護費で、その額は今や50兆円と、国の税収55兆円の9割を超えている状況だ。これは日本にとって大変なピンチだが、「見方を変えるところに大きなチャ

たまちづくり構想である。

そもそもCCRC

(Continuing Care Retirement Community)とは、健康時から介護時まで継続的なケアを提供するという、米国で広まった高齢者施設のコンセプト。日本では、米国とは異なる社会特性に合わせた日本版CCRCが、「生涯活躍のまち」として国の施策に組み込まれ、全国で進められようとしている。その特徴は、米国のCCRCが

しかしながらこの日本版CCRC

RC構想は、誤解や先入観も多く正しく理解することが大切だと松田氏は強調する。まず地方移住ありきでなく、都市・郊外と多様な立地が対象だ。アクティブ・シニアを呼び込むことは、地域の高齢化が進むと思われがちだが、雇用が生まれれば若年層の転入につながり、働き世代の流入につながる。結果的に高齢化と人

